まつり知っ得！その1

名古屋まつりのルーツ「東照宮祭」

▼第1回名古屋まつり 英傑行列（名古屋城）

戦後名古屋の発展とともに ～第70回を迎える「名古屋まつり」のあゆみ～

第1回「名古屋まつり」が行われたのは、戦災復興がすすむ**昭和30年（1955）**のこと。前年に実施された「名古屋商工祭」を発展させ、全市民の一大レクリエーション行事として盛大に開催されました。

祭りの中心行事は、郷土ゆかりの三英傑（織田信長・豊臣秀吉・徳川家康）が家臣団を従えて行進する**郷土英傑行列**です。第1回から変わることなく、名古屋の街なかでは華やかな時代絵巻が繰り広げられてきました。第19回（昭和48年）からは**市民公募**も始まり、郷土が生んだ三英傑は一層市民に親しまれる存在となっています。

◀第1回名古屋まつり ポスター

その他、初回から続く行事として、**市指定文化財の「山車揃」**があげられます。当地域の山車まつりは、絢爛豪華な山車のうえで、精巧なからくり人形の芸能が演じられるところに最大の特徴があります。

まるはっちゅ～ぶ 名古屋市公式YouTube

第１回名古屋まつり 昭和30年（1955年） 制作・字幕付き

名古屋まつりのルーツは、城下町を彩った「東照宮祭」

実は名古屋には、戦前にも「名古屋祭」と呼ばれる祭りがありました。徳川家康を祀る名古屋東照宮の祭礼**「東照宮祭」**です。

東照宮祭は、元和4年（1618）に始まったとされ、元和6年（1620）には初めてからくり人形を乗せた山車「橋弁慶車」が登場しました。9輌の名物祭車に、趣向をこらした練り物行列が華をそえる東照宮祭は、庶民ばかりではなく、武士や殿様も楽しみにする**城下町で最大の行事**でした。

八代将軍徳川吉宗の時世には倹約令が敷かれたため、東照宮祭の規模も縮小されることになりました。しかし、祭り好きの殿様として知られる第七代尾張藩主の徳川宗春は、縮小されていた行列をもとの規模に戻し、盛大な祭りを復活させたと言われています。

江戸・明治・大正・昭和と、数百年にわたって人々を魅了し続けた東照宮祭でしたが、昭和20年（1945）の空襲により、残念ながら山車9輌すべてを焼失。戦後まもなく開始された「名古屋まつり」は、東照宮祭を彩った山車や練り物風流に想を得ており、**近世以来の都市祭礼をルーツ**の1つとしています。

東照宮祭礼図巻（名古屋市博物館蔵）

城下町のメインストリート「本町通」

令和6年（2024）の「名古屋まつり」では、**第70回を記念**して、山車9輌が昼には「本町通」を南北に、夜には提灯をともしてドルフィンズアリーナまで曳行する**「本町通山車揃・宵の山車揃」**を開催します（10月19日）。名古屋まつりの行事として、例年の山車9輌が本町通を曳行するのは、昭和35年以来64年ぶりのことです。

名古屋城から大須を通って宮宿（熱田）へと至る「本町通」は、碁盤割の城下町のメインストリートにあたり、江戸時代には多くの人々が行き交いました。名古屋城総合事務所所蔵の**「享元絵巻」**には、何百人もの人々が描かれており、第七代尾張藩主 徳川宗春治世下の賑わう本町通（広小路通以南）の様子をうかがうことができます。山車揃の見物とあわせて、この機会に城下町の歴史を訪ね歩いてみてはいかがですか。

❶ 名古屋東照宮

元和5年（1619）、徳川家康を祀るために名古屋城内に創建されました。現在の本殿は、かつて万松寺にあった春姫の御霊屋で愛知県の重要文化財に指定されています。

❷ 桜天神社

桜の大樹があったことから「桜天神」と呼ばれ、名古屋城築城の際に加藤清正が陣を張ったことが知られています。境内には、昼夜12時を知らせる「時の鐘」がありました。

❸ 札の辻

本町通と伝馬町筋が交わる地点で、高札が掲げられたことから「札の辻」と呼ばれました。東に向かうと「飯田街道」、西に向かうと「美濃路」へと至り、本町通でもっとも賑わった交差点です。